入選（高学年の部）

千手観音

香川県　土庄町立土庄小学校 五年

田岡（たおか） 和泉（いずみ）

静まり返った家の中、大きな泣き声が響く。一人ぽつんとここにいる私のこの涙と鼻水は、いったいどれだけ出たら止まるのだろうか。その泣き声がこだまして自分の耳に飛び込んできて、またさらに悲しさでいっぱいになる。

「ママ会いたいよ。お願い早く帰って来て。」

以前、住んでいた愛知県の家には犬がいた。でも、小豆島の家に犬はいない、弱虫な私。

小学校から、ここ小豆島に転校してきた。それまで何も不自由のない生活をしていたが一転した。欲しいものがすぐに手に入らないし、フェリーを使わないと自分の行きたい所にもいけない。それでもあまり不便に感じていなかったのは、母が私のためにいつも朝から晩まで、学校へ送り迎えをしてくれたり、私のやりたいことは禁止もせずに温かく応援してくれたりしたからだ。母をひとり占めして温泉にドボンとつかったように幸せだった。

九才の五月、母が入院、とうとうその日がやってきた。取り残されてしまったような悲しい気持ちと、これから始まる父との生活にドキドキの気持ちが入り交っている。手が三つも四つも欲しいのに、おまけに父の世話までしなくちゃいけない。父は私を手伝ってくれるし、自分のことは自分でするし優しい。でも、母の代わりはできない。さっき電話で話したのにまたすぐに母の声が聞きたくなる。目を閉じても鼻からも口からも涙が飛び出す。がまんすればするほど涙は止まってくれない。

朝、起きたら私が歩く順路に必要なものが準備され、むだな時間を使うこともなく学校まで送ってくれる。ここはちょうどスクールバスが通らない場所で母が送迎も行っている。帰宅するとまた、私の予定に合わせ身の周りのことを滞りなくしてくれる当たり前の毎日。

母が退院して帰って来た。カンガルーより遥かに高く何度もジャンプして喜んだ。私にとって今までで一番嬉しかった記念の日だ。私に妹ができた。母の手は、八つくらいある神の手だ。私に二つ、父に二つ、妹に二つ、そして母自身に二つ、一度に何でもこなす器用な手。今までは見えなかったけれど、今は見える！嬉しいことがあるとすぐに泣いちゃうし、自由研究をしていて材料が足りなくなると夜中だろうがコンビニに買いに走って調達する。母は私のスーパーマンであり、ドラえもんだ。私は決して妹にしっとしてはいない、むしろありがとうの感謝であふれている。それは、妹のお陰で母の温かい太陽のような存在に気付くことができたから。そして、妹が生まれた後も母は妹の世話もしながら私のことも今まで以上にしてくれる。そのため、母の仕事は増え睡眠時間が減っていることを知っている。私は今、自ら進んで妹の分まで母の仕事を手伝っている。母が、朝キラッキラの笑顔でみんなを起こす。こうして今日も元気な一日が始まる。いつもありがとうママ。